
春に出会った少女との恋物語

疾風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春に出会った少女との恋物語

【Nコード】

N3470A

【作者名】

疾風

【あらすじ】

過去に取り返しのかからない過ちを犯した男が記憶喪失の少女と出会っていく物語です

第0話忌まわしき過去

この真っ白な世界は一体何なのだろう・・・こんな所来たこともなければきいたこともない・・・まわりには建物も人も何もない・・・本当にここはどこなんだろう。いや、まて・・・あれは何だ・・・子供？

見覚えがあるな・・・ あれは昔の俺？

もしかして、ここは俺の心のなかなのか？

俺には大切なものも無ければ、守るべきものもないから、だからこそ心の中も何もないのかもしれない・・・「しかし、懐かしいな昔の俺なんて・・・ん、何だこれ・・・箱か？」

俺は足元に落ちていた箱に気付き開けてみた。

「中に入っているのは紙か？」

箱の中身はA4サイズの大学ノートだった。

「しかも、俺の名前が書いてある・・・」

どうやらこのノートは俺のものらしい。

「なにか、書いてあるかな？」

とりあえず、俺は適当

に開いてみた。

『悠一・・・何で助

けてくれなかったの？』

俺ははじめ意味がわから

なかったがすぐに意味を理解した。

「まさか、そんなわけ・・・ない。あるはず・・・ない」

「あなたが助けてくれなかったから・・・見殺しにしたから・・・私は死んでしまったのよ・・・」

「うわああああ！」

第0話忌まわしき過去（後書き）

こんなものでも読んでいただいておりますがとうございました

第1話少女との出会い

「はぁ、はぁ、はぁ・・・」

午前6時俺、鈴城悠一は目を覚ました。

「くそっ！またあの夢か・・・」

まだ忘れられないらしいな・・・俺は・・・

俺が朝食をすませてバイトに行く支度をすませた頃には、すでに7時になっていた。

「のんびり行っても平気だな」

そして、通り道にある公園に通りかかったとき誰かにいることに気付いた。

「珍しいな、こんな朝早くから誰かいるなんて・・・」俺は、気になりふと、足を止めた。よくみると少女の様だ。しかし、様子がおかしい・・・。どうみてもベンチに横たわっている。俺は声をかけてみた。 「おい、あんた大丈夫か？」

返事がない。しかし、息はしている、寝てるだけみたいだ。

「このまま放っておくわけにもいかないよな・・・」

もう春とはいえまだ肌寒い。このまま死なれたりでもされたら後味が悪い。 「おい、あんたこんなところで寝てると風邪ひく

かもしれないから起きたほうがいいぞー」

「う、ううん・・・はっ！あなた、誰ですか!？」

「俺は通りすがりのものだあんたは？」

「わ、私は・・・誰でしょう？」

「はぁ？あんた記憶喪失だともいうのか？」

「どうやらそうみたいです」

（面倒なことになったな・・・遅刻するわ

けにもいかないしさっさと行くか・・・）

「そうか、それなら記憶が戻ることを祈ってるよ。それじゃ」

「あ、あのっ!」

「何だ？」

「私、行くところがないんです。」

「それで？」

「記憶喪失だから履歴書とかもなくして仕事とかもなくしてまともな宿もなかったりするんです」

「でなければこんな所で寝ていないだろう」

「ですから、通りすがりに・・・」

「まて、俺は通りすがりなんて名前じゃない」

「え、だってさっき・・・」

「さっきは名乗るのが面倒だっただけだ。俺の名前は鈴城悠一だ」

「そうでしたか、すみません」

「いや、べつに・・・」

「で、悠一さんの家にしばらく置いてくれると助かるんですが・

・・・」

「断る」

「何ですか」

「当たり前だろ！俺は厄介ごととは御免なんだ」

「私、このままじゃのたれ死んじゃいますよ」

「そんなこと言って今まで平気だったんだろ？なら平気だ。

じゃあな、俺はいく頑張って生きろ」

「待ってくださいよ」

「お前と話したらバイトに遅刻しそうじゃないか！遅刻したら大変なんだぞ！店長には怒られるし、時給は下げられるし・・・」

「どこでバイトしてるんですか？」

「近くの喫茶店だ」

「なんて名前何ですか？」 「スプリングシャインだ」

「春の光ですか・・・いい名前ですね」

「俺に言ってもしょうがないだろう・・・」

マスターに言え」

「それもそうですねま

あそれは置いて、商談に・・・」

「入らん！俺はもう行くからな！」

「女の子の気持ちを弄んでおいて面倒になったら捨てていくんですか！ひどいですよー！」

「誰がいつ弄んだ！人聞きの悪いことを言うな！」

まだ何か喚いていたが、俺は無視していった「おはようございまーす」

「あ、悠一君今日はちょっと遅かったのね」

この人は神崎恭子さんこの店のマスターだ

「ええ、変なのに絡まれましてね。でも遅刻じゃないでしょ？」

「大丈夫よくだいたいそう言う理由なら遅刻も無効にしてあげるわよ。朝からツイてなかったわね」

「その代わりになんかいいい事があるといいですけどね。さあ、今日も一日頑張りますか！」

「よし、頑張りますか！」

10時過ぎ・・・

「さすがにまだお客さんはきませんね」

「まださすがにね・・・」

カラン、カラン
「いらっしやいませーお一人

ですか？」

「はい」

「ショートケーキと紅茶ください」

「かしこまりましたしばらくお

待ちください」

3分後・・・

「悠一君

もって行って」

「はい」

「お待たせいたしました・・・た」

「あ、よかったいたいた悠一さん」

「お、お前はけさの・・・」

「んゝなになに？どったの？」

「私、今朝悠一さんに弄ばれたんです・・・」

「悠一君・・・君、なんてことを・・・」

「恭子さん！何言ってるんですか！」

「しかも、散々弄んでおいて面倒になったら捨てていくんです・・・」

「何、人聞きの悪いこと言っとんじゃー！」

「まさか・・・あんなことやこんなこともされちゃったわけ！？」

「はい・・・」

「んなことするかー！」

「ゆ、悠一君！とにかく謝りなさい！謝って許されることではないけどとにかく謝りなさい！」

「だからしてねーって言ってるだろがー！」

「はっ！まさか悠一君がこの店に残っていた理由は私を襲うため・・・！？」

「違うわー！誰があんたみたいな年増なんか襲うかー！」

「誰が年増だって？」

「あ、しまった・・・失言でーす恭子さんあなたは若くて美しいです！年増なんかじゃありません！」

「よろしい」

「話を戻すけど何であんたここにきたんだ？」
「だから悠一さんの部屋においてもらいたいから頼みに・・・」

「断るといったら何度きても無駄たぞ」

「お願いしますよー行くところがないんですよー」

「だったら恭子さんのところに泊めてもらえ！」

「あら、私は無理よ。部屋片付いてないもん」

「だそうです」

「意地張らずに泊めてあげなさいよ」

「いやなものはいやなんだ！あきらめろ！」

「そう・・・仕方ないわね」

俺がやっとあきらめてくれたと思ったときだった。 「なら、店

長命令よこの子を泊めなかったらクビよ。」

「はあ！？」

「どうする？」

「わかったよ！わかりましたよ！泊めますよ、泊めればいいんですよ！」

「最初からそういえばいいのよ」

「横暴だ・・・」

「悠一さん、ありがとうございます」

「もういい、気にするな」

「改めまして、私は・・・名前分かんないんです」

「え、何で？」

事情を知らなかった恭子さんが質問してきたのでとりあえず説明した。

「へえ、記憶喪失にねえ・・・」

「そうなんですよ」

「それで名前が分からないってことか」

「ええ」

「だったら悠一君が名前付けてあげれば？これからは一緒に暮らすんだし」

「そうですね、お願いします悠一さん」

「そうですね・・・春だし桜なんてどうですかね」

「うわ、安直」

「仕方ないでしょ！他に思いつかないんだから！」

「でも、いいじゃないですか桜って綺麗だし」

「まあ本人も気に入ってるみたいだしいいでしょ」

「とりあえずこれからよろしくな桜」

「はい！悠一さん」
こうして俺は桜と一緒に暮らすことになった。あんなことになるとも知らずに・・・

第1話少女との出会い（後書き）

どうだったでしょうか！？この話ほとんどの人が展開が読めると思いますがよかったです最後まで読んでいただけたら幸いです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3470a/>

春に出会った少女との恋物語

2010年10月17日03時55分発行